群馬県立太田特別支援学校　学校評価一覧表（令和６年度版）

（様式）

羅針盤				方策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等	総合			
Ⅰ　幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1　保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	○Tayo通信や学部だより、学校Webページ等から「学校の様子がよく分かる」と保護者の90%以上が評価している。	小学部主事 中学部主事 情報部	○各種通信や学校Webページを分かりやすい表現で作成し、内容の充実を図る。学校Webページの「学校ブログ」の更新を週に一度行い、様子を伝える。	A	B	B	○学校からの各種通信は例年通り発行した。保護者より、紙の通信の写真がよく見えず内容が伝わりにくい、Webページの更新頻度が年度によりまちまちで残念という意見があった。	・学校ホームページを時々見ているが、学校の児童生徒の様子が伝わってくる。日々、前向きに活動しているのがわかる。 ・各種便りについては、文面、編集を考えて作っている。 ・学校ホームページアップの頻度は高い。いろいろな(載せる・載せられない)児童生徒がいるので、その仕事量も大変だと思われる。	○より活動状況が分かりやすいような紙面作りに努める。Webページの更新がスムーズに行われるようにする。
		○授業参観や学校行事、PTA活動等に「参加しやすい」と90%以上の保護者が評価している。	教務部 渉外部	○保護者が参加する行事やPTA活動について参加しやすいように見直したり、精選したりする。 ○学部や各種委員会での保護者の意見を毎学期集約し、関係者が参加しやすい学校行事やPTA活動の内容の改善を行う。	A	A	A	○授業参観、PTA活動とも、参加率の高いものとなり、学校評価の数値も高かった。評価の意見の中に、午後の開催を求める声もあり、今までどおりでよしとせず、常に検討しながら実施していく必要があると感じた。		○今年度よりも参加しやすい日程や内容を設定し、保護者への参加を求められるようにする。
	2　保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	○個別面談や日頃の相談等、「学校はお子さんのことなどについて適切に対応している」と、90%以上の保護者が評価している。	小学部主事 中学部主事	○保護者の話を丁寧に聞き、思いや意見をくみ取る。特に日頃の相談においては、タイミングを逃さず適切に対応する。内容に応じて、学年・学部等で検討したり関係機関と連携を図ったりしながら支援を行う。	A	A	A	○保護者より、個別面談や連絡ノート等で学校の様子がわかり安心して子どもを預けられるという意見があった。	・保護者目線から、子どもから伝わらないことが多いので様子がわかってありがたい。量も多く、負担にならないように、毎日少しずつでも伝えていただければと思っている。	○関係機関(放課後等デイサービス等)と話し合いがもてるとよりよい支援が行えるのではないかという気持ちをもっている保護者もいることがわかり、ニーズの把握が必要である。
		○「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」について、学校と保護者との共通理解に基づいて作成されたものになっていると、90%以上の保護者が評価している。	学習指導部	○個別面談や担当者会議において、児童生徒の実態から、目指す姿や方針、支援内容について保護者の要望を聞き、丁寧な合意形成を図る。	A	A	A	○新入生については、保護者からの聞き取り調査を基に、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成した。その他の学年の児童生徒においては、前年度の評価と課題や面談での保護者との話合いの内容を基に、一貫した指導が行えるよう目標設定を行った。		○児童の実態から考える必要な支援と、保護者の願いが異なっていたときに、どのような目標を立てればよいか悩むことがあった。学習指導要領を基に、目標を設定したり、設定した目標や学習活動について保護者に丁寧に説明していく必要がある。
Ⅱ　地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3　障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	○外部の幼児児童生徒等に対する相談に園や学校に出向いたり、電話や来所による相談に対応したりして、相談者の90%以上が有益であったと評価している。	地域支援部	○年度当初に地域の学校園に対して案内を送付し、HPにも訪問事項を掲載することで事業の主旨の周知を図る。相談者や対象幼児児童保護者、学校園の環境等を考慮し、支援者に寄り添った有効な手立てを具体的に提案する。	A	A	A	○4月下旬の案内配布後、迅速に日程を調整して、園や学校を訪問した。特別支援学級の運営面の相談では、担任のニーズや教室環境等を考慮して、具体的な手立て提案してきた。園訪問では対象児のできること・長所等に着目した関わりを意識できるような伝え方を大切にしてきた。	・学校参観等の場面で近隣の小中学校の教師が参観できる場面があると良い。その場合も双方に負担のないやり方で(現状ある行事に組み込む等)やれると良い。	○訪問相談の依頼に際し、有意義な相談になるように対象人数や相談時間の調整をしていく。ニーズに合わせて必要なときには再訪問できることを伝えていく。特別支援学級の担任が抱える課題解決に向けて、より細かにその学校の管理職に情報提供等を行う必要がある。
		○年間6日実施の学校見学、3日実施の学校参観の受け入れ人数を増やすとともに、個別でも学校見学の希望者を受け入れ、85%以上の参加者が満足と評価している。	地域支援部	○地域支援部が中心となり、センター的機能は学校全体で取り組むものという確認をしながら各学部・分掌との連携・協力する体制を継続し、参観者を受け入れていく。	A	A	A	○学校見学の保護者アンケートでは、95%以上が満足という結果であった。職員と児童生徒の関わり、雰囲気等について好意的な感想の記述が多数あった。個別見学にも適宜対応できた。		○担当者が協力し、早めに準備を進めていく。学校見学、学校参観の日時と対象者を学校全体に周知し、抵抗感なく日頃の実践の様子を参観者に公開してもらえるようにする。
Ⅲ　幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4　個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	○「個別の指導計画」について、児童生徒や保護者のニーズを尊重しながら、児童生徒の実態に合った内容になっていると、保護者の90%が評価している。	学習指導部	○個別面談や日頃の連絡を通して、保護者の思いやニーズを聞き取り、「個別の指導計画」を作成する。個別面談時には、実物の教材や映像等を活用し、具体的な支援の方法や児童生徒の姿が保護者に伝わるように工夫する。また、学習指導要領を基に指導目標や指導内容を決定していることを伝える。	A	A	A	○児童生徒の実態把握や、保護者の願いの聞き取りなどを行い、学習指導要領に基づいて目標を設定できた。個別面談では、個別の指導計画について説明したり、実際に使用している教材を提示したりして、より具体的に説明を行った。	・個別の指導計画は整えられた形式になっており、読みやすくわかりやすい仕様になっている。来年度形式が変わるが同様にできると良い。 ・校内研修において、夏季休業中の研修では隣の太高特と相互の研修に参加できるようにしたことは今後も引き継いでいけると良い。 ・保護者向けの研修は大変意義がある。職員研修にも魅力的なものがあるので保護者も参加したい。	○学習目標が同じでも、児童生徒一人一人の学習内容を精選し、実態に応じた支援をしていけるとよいと考える。
	5　指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	○「個別の指導計画」にあげた目標の達成率が90%以上である。	学習指導部	○目標の設定やその手立て、評価について、学習指導要領に基づいたものになっているか、児童生徒の実態に応じたものになっているか等について、担任間、学年、学部で検討する機会を計画的に設ける。また、定期的に目標や指導方法を見直し、より児童生徒の実態に合ったものになるよう更新していく。	A	A	A	○個別の指導計画検討会において、それぞれの児童生徒に適した目標になっているか、手立ては適切かなど、話し合う機会を設けた。		○作成した目標を達成するために、適切な授業づくりが行われているか等、個別の指導計画と授業との結びつきについて改めて考える機会を設定するなどPDCAをより意識していく必要がある。
		○校内研修や各自で受講した研修内容を授業改善や指導等の工夫に生かしていると90%以上の教員が評価している。	研修部	○校内研修に参加者が意欲的に取り組めるように、研修係が研修を企画し、計画的に実施をする。 ○外部の研修案内や資料を周知し、職員が研修しやすい環境を整える。	A		A	○校内研修では、職員に希望する研修のアンケートを実施し、それを基に企画・運営をした。 ○外部研修の案内や資料の周知をkinakoの校内掲示板を通して速やかに行った。		○校内研修の中で、教材(ICT教材含める)や視覚支援ツールを作成したり、作成したものを共有し合う時間があるとよいと考える。
Ⅳ　健康や安全の確保に努めていますか。	6　健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	○児童生徒一人一人の健康上の配慮や対応について満足していると保護者の90%以上が評価している。	保健給食部	○児童生徒の健康上の配慮や生活習慣の確立に向けた情報共有を季節や行事に合わせ、面談や連絡帳等で行う。	A	A	A	○保健目標の設定や掲示物などで、生活習慣の確立に向けた情報の共有を行った。	・どのようにしたら緊急時に連絡を見てもらえるかを考えられると良い。日頃からメールを送信するような体制を取り、意識をしてもらう工夫があると良い。 ・2011年東日本大震災の時、待機している子どもたちがパニックで大変だったので、そういった場面も想定しながらの準備が必要であると考える。	○児童生徒の健康状態について、今後も日常の健康観察や検診により正しく把握し、健康管理に努める。また、規則正しい生活習慣の確立に向けて、生活リズムが身に付くよう指導する。
			保健給食部	○健康上、特に配慮が必要な児童生徒については、全職員で共通理解を図る。また、学年会等で児童生徒の健康上の配慮や対応について話し合いを行う。	A	A	A	○全学部、課程で緊急時対応訓練の実施やプコラムなどの緊急時薬の使用方法を確認したことで、職員全体で共通理解を図ることができた。		○今後も緊急時の対応について係を中心に定期的に確認をしていく。また、感染症予防策として、教室の環境整備や手洗い・咳エチケット等の指導をする。
	7　危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	○緊急時対応マニュアルをもとに、緊急時の対応策(避難訓練)を年3回以上実施している。	安全管理部	○職員会議で、『緊急時対応マニュアル』の周知を行う。 ○緊急時避難訓練を行う際に、事前に『危機対応マニュアル』を確認するようにアナウンスをする。	A	A	A	○年度の初めに緊急時対応マニュアルを配付し、避難訓練の際には参考にするようにアナウンスをした上で、避難訓練の際には緊急時対応マニュアルを元に、実施計画を作成し、計3回避難訓練を実施した。(地震、火災、不審者)		○アンケートを実施し反省点を募集したが、出てきた課題を全体で共有したり、どのような点が改善されたのかを十分に周知できていなかったため、各訓練後に、具体的に「何を」「どのように」改善したのかを職員に周知する必要がある。
Ⅴ　将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8　キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	○キャリア教育全体計画に基づき、発達段階や生活年齢に応じて、将来に向けた指導(生活集中週間、作業集中週間等を含む)が計画的に行われていると保護者の90%以上が評価している。	進路指導部	○個別面談等で生活集中週間、作業集中週間、就労社会体験が将来の生活とどのように関連しているかを保護者と確認をするとともに、保護者のニーズも吸い上げて、児童生徒一人一人にあった目標を設定する。	B	A	B	○生活集中週間、作業集中週間、就労社会体験等を当初の計画どおりに実施。将来の生活との関連については、面談の際に保護者と確認した。ただ、キャリア教育全体計画との結びつきが周知されていないまま、指導を行っている状況である。	・小学校段階では、就労に向けてのベースとして、6年間で1枚のキャリアパスポートを作成している。 ・高等部では、行事ごとにがんばったことを記録している。本校は本来のキャリアパスポートの形ができている。他の評価(通知表など)との絡みもあるので、記録量は多くなくて良い。	○キャリア教育全体計画を見直し、位置づけを明確にすることが必要。職員間の共通理解を図るとともに、保護者への説明や情報提供を進めていく。
		○キャリアパスポートは、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるように、有効的に活用されていると保護者の90%以上が評価している。	進路指導部	○キャリア教育に関わる諸活動について、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるように、児童生徒の発達段階や生活年齢に応じたキャリアパスポートを作成する。	B	B	B	○キャリアパスポートの作成については、保護者から理解を得られ、学期の節目に児童生徒自身が目標を立てたり評価をしたりできているが、実際に立てた目標がその時だけのものとなり、1年を通して有効的に活用できていない。		○本校の実態に合わせて、キャリアパスポートを見直していき、評価や振り返りをしやすくするとともに、1年を通した変容も実感できるようにする。実施をする意義を職員間の共通理解を図るとともに、保護者への説明を徹底する。
	9　保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	○学校は児童生徒の将来の生活に向けた進路指導を、関係機関と連携をして行っていると保護者の90%以上が評価している。	進路指導部	○保護者向けに高等部(高等特別支援学校)の職員による講話を設定したり、中学部において進路選択の関心を高める授業の紹介をしたりし、卒業後の生活についての理解を深める情報提供を行う。	B	A	B	○高等部への見学・相談を積極的に勧めることができた。今年度より、募集が中学部生徒のみとなったため、小学部家庭への進路指導の機会が減った。 ○市職員や福祉施設の職員による講話の機会を設け、卒業後の姿を保護者・教職員ともに理解できた。		○今年度のアンケート結果を参考に、保護者や職員のニーズに合った情報を提供できるようにする。